



河津桜もきれいでした

令和4年度自然散策と地域の宝さがしが、令和5年3月5日（日）に開催されました。

当日はお天気も良く、「肥後の石工 橋本勘五郎生誕200年記念 石橋めぐり」ということで、橋本勘五郎さんの生家を含むコース（約2.2km）を27名の参加者が散策しました。今回は、昨年発足した中学生ボランティアガイドによる案内でしたが、とても分かりやすく、新鮮で、参加者のみなさんにも大変好評でした。

散策終了後には、後村会長より東陽中学校3年生10名（当日は6名参加）へ終了証と記念品が贈呈されました。

中学生のみなさん、参加者のみなさん、お疲れ様でした。

自然散策と地域の宝さがし

～肥後の石工 橋本勘五郎生誕200年記念 石橋めぐり～



橋本勘五郎さんの生家前にて



鍛冶屋下橋を渡りました



白髪岳天然石橋をバックに説明中



菅原神社にて



権三別当堂の石垣について説明をする中学生



終了証贈呈

町の若い力

成田 光彦さん（50歳）
智恵さん（40歳）

～生姜の魅力に惹かれて～

とても素敵な笑顔です☆



智恵さんの津軽三味線も聴きたいなあ。



「町の若い力」第1回目は、北地区の成田光彦さん、智恵さんご夫婦を紹介します。

智恵さん（旧姓：寺本さん）は、ご存知の方も多いと思いますが、津軽三味線奏者で、青森県で修行されている時に光彦さんと出会い、ご結婚されたそうです。

お二人が青森県から東陽町に生姜を作るために移住されてから12年。1人息子の陽音くんは4月から6年生です。

光彦さんは、智恵さんの実家から送られてきた「デッカイ生の生姜」を初めて見て、「生姜を作りたい！」と思われたのが移住のきっかけのことです。光彦さんのご両親は、脱サラして熊本に行く息子さんに、「どこであろうと生きていければ良い。」と言われ、送り出されたそうです。

東陽町に来て1年間は、実家の寺本誠さん宅で過ごし、ご両親から生姜作りのノウハウを教わったそうです。その後、新規就農という形で手続きを行い、竜北に畑を借り、生姜作りの第一歩を踏み出されました。

光彦さんは、聞きなれない熊本弁や、青森より暑い熊本にご苦労もされたようですが、「畑の消毒をしても病気が出るのはなぜだろう？」と、土壌改良などを研究し、最近では東陽町にも畑を借り、生姜作りに専念されています。また、しょうが祭りにも出品し入賞もされています。生姜一筋のお二人の頑張りが実り、青森と熊本の愛情たっぷりの生姜が誕生したようです。素晴らしいです。

また、「光彦さんは力持ちで頼りになるけど、光彦さんの青森弁と私の熊本弁のバトルもあります。」と、話される智恵さんの目はキラキラと輝いていました。

生姜の魅力に惹かれ、自然相手に逞しく生きておられる若いお二人に心からエールを送ります。

総務大臣表彰の受賞

～後村新一さん（鶴区長）～

後村区長が「令和4年度自治会等地縁による団体厚労者総務大臣表彰」を受賞されました。

後村さんは、平成19年4月に鶴区長に就任。その後、平成23年4月から令和2年3月まで、東陽校区をまとめる校区長として校区の発展に貢献され、現在は東陽まちづくり協議会会長として地域課題の解決に尽力されています。

後村さん、おめでとうございます。

ますますのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



おめでとう
ございます

体力づくり持久走大会の開催
『わぁ！ドンピシャだった！』



令和5年2月5日（日）、「校区内一周駅伝大会」に代わり、各個人で体力づくりが行える持久走大会が開催されました。

この大会は、約500m、900m、1.2kmの3つのコースを東陽町に居住する保育園児から社会人までの参加者が自分で宣言したタイムを目指して走るタイムレースです。

この日はお天気もすばらしく、たくさんの参加、保護者の応援があり、とても賑わいました。

結果は、宣言通りドンピシャの人、1秒、2秒の誤差の人もいましたが、宣言タイムより早い人が多かったようです。

また、1位～5位までの入賞者には賞品、参加者全員にせせらぎの温泉券が渡されました。

みなさん、ケガなく無事に完走されて良かったです。

最後に徳田体育協会会長より、「来年は仮装・コスチューム等提案をして、もっとにぎやかにしたい。」と、講評がありました。走るのが苦手な人でも楽しんで参加ができる持久走大会、来年も楽しみます！



900mコース

子どもたちもやる気満々！！



500mコース

いちどついで～



よく頑張りました！



開会式の様子



入賞者へ賞品の贈呈

顔よりデカイぞ！晩白柚収穫体験

令和5年1月28日（土）、29日（日）に東陽グリーンツーリズム主催の晩白柚収穫体験がありました。今回のイベントには橋永農園さんがお手伝いをされていました。両日で40組のお客様が参加され、晩白柚のお世話をされている山田勝利さんより説明を受け、いざ収穫へ。晩白柚は、世界最大の柑橘とも言われていますが、日当たりの良い場所に顔よりデカイ立派な晩白柚がたくさんぶら下がっていました。



今回で4回目の参加者は、4口（1口5個）20個を収穫され、そのほとんどを贈り物にされるそうです。晩白柚は厚い皮をむいて生食しますが、皮も砂糖漬けに加工できるので皮まで楽しめます。

収穫体験では、前田スエメさん手作りのちらし寿司や晩白柚の砂糖漬けもご馳走になりました。



東陽の偉人 生姜と晩白柚の父 島田 弥一さん

東陽町は、生姜の産地としても有名ですが、その栽培普及に大きく貢献したのが小浦出身の植物学者・島田弥一氏です。終戦後、台湾から帰郷、「地元の気候風土に適した農産物を」ということで推奨、定着させたのが生姜です。そして島田氏は、今や八代特産・晩白柚を東南アジアからもたらしたことで有名です。




明治 17 年 12 月 10 日	東陽村小浦で誕生
明治 33 年 4 月	熊本農業学校（現 熊本農業高等学校）に入学
明治 37 年 3 月	台湾総督府農事試験場勤務
明治 38 年 11 月	歩兵第二十三連隊に入隊
明治 41 年	大甲蘭及同製作品調査書、台湾果物調査第一巻出版
大正 6 年	沖縄与那国島に関する最初の採集報告を発表
昭和 22 年 8 月	熊本農業高等学校同窓会長就任
昭和 23 年 2 月	種山村農業協同組合設立発起人となり、初代組合長に選任
	熊本営林局の嘱託となり、監物台樹木園に以後5年間勤務
昭和 46 年 6 月	86歳で永眠

Qクイズ 私は誰でしょう？

ゲストさんに次の4つの質問をしてみました。Aさんは誰でしょう？

Aさん（ヒント：河俣地区 64歳）



- ①「有言実行」「無理をしないできたしこ」
- ②仲間づくりと地域貢献
- ③犬 
- ④95%

- ①座右の銘は？
- ②今、熱中してることまたは楽しみなことは？
- ③自分を動物や花に例えるとなんでしょう？
- ④今、幸せ度は何%ですか？

★第37号の答えAさん⇒平木 雅万さん（北地区）でした！
今月号の答えは、この紙面の下に書いてあります。

こんにちは
えなちゃん



本宮 笑和（えな）ちゃん
令和4年1月14日生まれ
父 悠都さん（南地区）
母 千里さん

☆健やかなご成長をお祈りいたします☆

笑顔で湯茶接待 ～スリーデーマーチの開催～

4年ぶりに開催された2023九州国際スリーデーマーチ。中日の3月4日（土）、火の君東陽石造りコース（40km）の参加者が休憩地点とする定住センター前にて、婦人会の皆さんが湯茶接待を行いました。東陽産ミカンの配布や励ましの言葉に、参加者の皆さんは喜ばれていました。婦人会の皆さんお疲れ様でした。



～香典返し寄付のお礼～

東陽まちづくり協議会に、香典返しとして寄付がありました。

- | | |
|--------------|------------------|
| ◆喪主 倉田 一子 様 | ◆故人 倉田 一彦 様（新 開） |
| ◆喪主 大石 ひとみ 様 | ◆故人 大石 賢 様（ 鶴 ） |
| ◆喪主 養本 サチ 様 | ◆故人 養本 均 様（鹿 路） |
| ◆喪主 谷崎 キヨノ 様 | ◆故人 谷崎 政義 様（館 原） |
| ◆喪主 中野 文子 様 | ◆故人 中野 敏憲 様（西 原） |

故人のご冥福をお祈りいたしますと共に、ここに厚く御礼申し上げます。
東陽校区発展のため、有効に活用させていただきます。
東陽まちづくり協議会 会長 後村 新一

河俣保育園 人形劇鑑賞会

令和5年2月14日、河俣保育園で親子人形劇鑑賞会がありました。人形劇の題名は『長靴をはいた猫』でしたが、約1時間の間、子どもたちの笑い声がたくさん聞こえていました。親子、先生方と一緒に楽しく鑑賞でき、八代市立河俣保育園として最後に最高の思い出ができましたね♡



田のわだい

～肥後チャボに魅せられて～
坂崎 美千代さん（南地区）



皆さんは、「肥後ちゃぼ」を聞いたか、見たかありますか？

令和5年3月1日、天然記念物の肥後ちゃぼを飼育されている坂崎美千代さん取材しました。坂崎さん宅は日当たり

が良く、広い庭の一角には、もみぎらなどを敷き詰められ、きれいに清掃された鶏小屋があります。現在は、達磨（だるま）ちゃぼの純血種が11羽、ふ卵器からかえった、かわいいヒヨコが11羽います。

美千代さんは幼い頃、ちゃぼを飼育されており、子どもたちも大きくなったので、再び飼育することにされたそうです。今はご主人の伸治さんも肥後ちゃぼの魅力に惹かれ、率先して協力されているようです。

達磨ちゃぼの魅力は、「赤い冠とハサミでチョコキンと切ったような『チョコキ尾』、また黒い羽根が光に当たるとエメラルドグリーンに輝き、とてもきれいなところ。」と、美千代さんのちゃぼ愛が止まりません。しかし、純血種だから病気に弱いところもあるので、予防接種も年に2回接種され、毎日健康状態も観察しておられるようです。また、猫やトンビなどの天敵からも守ってあげないといけません。

美千代さんは3年前に「肥後ちゃぼ保存会」に入会。実はこの会には小学生も入会しているそうです。また、美千代さんの育てたちゃぼは、肥後ちゃぼ展で入賞されたこともあるそうです。

今後ともご夫婦でますますチャボ愛を深め、その魅力を私たちに発信してくださいね。



☆こうほう『東陽幸せまちづくり』は広報人権委員による手作りの広報誌です。まちの「ホット！」な情報を発信していきます！お楽しみに☆
大江田久子・奥田勲・本島克介・徳田秀男・平木恵子・黒木信夫・岩山明洋

☆私は誰でしょう？（4月号）の答え・・・橋永 高德さん（河俣地区）です。